

# 台風・コロナ禍にめげず「車いす寄付しよう」

生徒が頑張る栃木・下野市立石橋中、累計300万点



①福祉委員会のみなさん②仕分けに取り組み委員たち  
③台風19号襲来後の様子(石橋中提供)

栃木県下野市にある市立石橋中学校(坂口修校長、生徒606人)は、生徒の福祉委員会が、ベルマークを貯めて車いすを買い、近くの施設に届ける活動をしています。ところが昨年、台風19号の大雨で校舎が浸水、せっかく集めたマークが泥につかって廃棄せざるを得なくなりました。さらに新型コロナ禍も襲いましたが、生徒たちはめげずに活動を再開させ、「今年度中には車いすを贈りたい」と張り切っています。

石橋中はベルマーク財団からの支援対象にもなり、その寄贈マークを加えて累計点数は300万点の大台に達しました。ベルマークの活動主体は生徒の福祉委員会。点数を貯めて3年に一度、車いすを買い、近くの特別養護老人ホームに贈ることを目標にしています。最近では2016年11月に車いす2台を贈りました。

学校の周囲は田んぼが広がっています。昨年10月の台風19号で近所の川が氾濫。泥水が学校に押し寄せました。当時、校舎は改修工事中で、プレハブの仮設校舎を使っていましたが、床上浸水の被害に遭いました。生徒会室で保管してあった仕分け済みのベルマークも泥だらけになり、廃棄処分にしたそうです。

財団では昨年の台風・大雨で宮城・栃木・千葉・長野4県の計50校を支援しました。石橋中も支援先に選ばれ、3月に寄贈マークが預金に加算されました。これも加えて、マークの累計点数は300万点の大台に。この支援で、高压洗浄機と掃除機を買いました。

校舎の改修工事は台風の影響で遅れ、今年3月まで続きました。すると今度は新型コロナ禍で休校に。学校が再開したのは6月でした。そこでベルマーク運動

も再スタートを切りました。最初の福祉委員会では、今年度中に車いすを1台以上贈ろうと、全校生徒に一人毎月10点ずつマークを集めてもらう計画を立てたそうです。

7月上旬、委員会の活動取材しました。放課後、担当の加藤香織先生が委員たちにマークが入った封筒などを渡し、仕分け作業が始まりました。みな真剣な眼差しで手を動かしています。お互い声をかけ合うなど協力し、作業を終えた封筒が次々と教壇に戻されました。特別支援学級の生徒が作業学習の一環として仕分けをすることもあったそうです。

増山輝くん(3年)は台風の際に、教室のロッカー最下段に入れていた教科書やファイルが半分以上水に浸かり、「自然災害は人間の力ではどうにもできず、すさまじい」と思ったそうです。昨年も

福祉委員だった川中子瑠南さん(2年)は「たくさん集めたマークが使えなくなったのは残念でしたが、これからもっといっぱい集めて、車いすをプレゼントする目標を達成したい」と前を向きま。

福祉委員長の大塚勝平くん(3年)は、学校全体で社会貢献できることに興味を持ち、委員会に入ったといい、「呼びかけるとみんな協力してくれるのでありがたいです」と話します。



加藤先生は「目標に向けて生徒たちは黙々と活動しています。累計の300万点も、過去の石橋中の頑張りを今の生徒が引き継ぎ、自主的に活動を続けてきた結果なので、非常に嬉しいです」と語ってくれました。

## ベルマーク、はじめました

愛知の専門学校と秋田の児童発達支援施設

ベルマーク運動には毎月、10～30ほどの団体が新たに参加しています。小中学校がほとんどですが、大学・公民館や専門学校、さらに児童発達支援事業所なども含まれます。6月に運動に参加した2つの団体、愛知県豊田市にあるトヨタ看護専門学校と、秋田県五城目町にあるチャイルドステーションゆうゆうに、それぞれの取り組みなどをお聞きしました。

トヨタ看護専門学校は、トヨタ自動車1943年4月に准看護婦養成所として創立、その後1987年4月に現在の校名で開校しました。現在は約120人の生徒が看護師を目指して日々学んでいます。

ベルマーク運動への参加登録はPTAが一般的ですが、同校から届いた申込書の団体名は「自治会」。地域社会に貢献するため、全校生徒が所属する組織として1943年の創立時に作られました。長谷川葵さん(2年)をリーダーに、教職員15人も協力してペットボトルキャップの回収や古本のリサイクルなどにも取り組んでいます。



ベルマークは、ただ集めていただけだったそうですが、たくさん貯まってきたことから参加登録を決めました。自治会担当職員の内田ルミさんは「ベルマーク運動は幼い頃から親しみがあり日頃から触れる機会も多い。それを継続したかった」と言います。

今後の目標を教えてくれたのは大橋玄季さん(2年)。「目標は年間2000点の収集。集計が想像以上に大変ですが、皆と協力して続けていきます」と話してくれました。

チャイルドステーションゆうゆうは、知的障害や発達障害がある子どもたちが



①「ゆうゆう」での作業風景。整理袋にゴム印を押ししていく  
②トヨタ看護専門学校の学生の皆さん

過ごす事業所で、計19人が通っていません。職員の島崎瑠衣さんは「障害の特性に応じた個別活動や、地域の施設を利用した体験活動、教室開催など、広い視点からのアプローチ」を大切に、「今日も楽しい！」を引き出すことを心掛けています。

ベルマークに関わったきっかけはひとりの女の子。その子は来るたびに職員とマークを集めて数え、100点を目標にしていました。それが1年半後には400点を超え、今回の参加登録となったのです。

ある子は毎日のおやつにマークがついていないか探します。また、別の子はハ

サミを使うのが苦手なのにマークは頑張って切り取ってくれます。「自分たちができる範囲で楽しんでくれている」と島崎さんは感じています。

実は島崎さん、以前勤めていた幼稚園でもベルマークを集めており、累計200万点を達成して財団から感謝状が届いたことを覚えていました。2018年4月に設立したばかりの「ゆうゆう」ですが、「子どもたちが大人になるまでに、どれくらい集まるのかな」と楽しみにしています。「ゆうゆう」が目指す「今日も楽しい！」を引き出すひとつとして、マーク収集を継続してもらえたら嬉しいです。